

第1回 環境教育ワーキンググループ

日時: 平成19年8月21日(火) 15:00~17:00

場所: 釧路地方合同庁舎 5階 共用第1会議室

----- 議事次第 -----

1. 開 会
2. 議 事
 - 1) 環境教育ワーキンググループの活動について
 - 2) アンケート調査の実施について
3. その他
4. 閉 会

----- 配布資料一覧 -----

- ・ 当議事次第
- ・ 環境教育ワーキンググループ名簿
- ・ 第1回ワーキンググループ出席者名簿 / 座席表
- ・ 資料1 環境教育ワーキンググループの活動について(案)
- ・ 資料2 アンケート調査票(案)

[参考資料] 釧路湿原自然再生における環境教育の推進に関する経緯

釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会
環境教育ワーキンググループ名簿

<個人>

大森 享 (北海道教育大学釧路校 准教授)
金子 正美 (酪農学園大学 環境システム学部 教授)
神戸 忠勝
新庄 久志 (釧路国際ウェットランドセンター主幹)
高橋 忠一 (北海道教育大学釧路校 准教授)
鶴間 秀典
永瀬 知志
松本 文雄

<団体>

阿寒国際ツルセンター
釧路国際ウェットランドセンター
釧路自然保護協会
釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会
釧路湿原国立公園連絡協議会
釧路市民活動センターわっと
釧路シャケの会
NPO 法人 環境把握推進ネットワーク - PEG -
NPO 法人 釧路湿原やちの会

<教育行政関係機関>

北海道教育庁釧路教育局、釧路市教育委員会、釧路町教育委員会
標茶町教育委員会、鶴居村教育委員会

<関係行政機関>

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部
林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター
北海道釧路支庁
釧路市

<ワーキンググループ事務局>

環境省北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所
財団法人北海道環境財団

第 1 回環境教育ワーキンググループ 出席者名簿

< 個人 > (出席者 50 音順)

氏 名	所 属
大森 享	北海道教育大学釧路校 准教授
神戸 忠勝	
新庄 久志	釧路国際ウェットランドセンター主幹
高橋 忠一	北海道教育大学釧路校 准教授
鶴間 秀典	
松本 文雄	

< 団体 >

氏 名	所 属
太田 幸	阿寒国際ツルセンター
福田 芳弘	釧路国際ウェットランドセンター
高山 末吉	釧路自然保護協会
近藤 一燈美	釧路湿原国立公園ボランティアレンジャーの会
福田 芳弘	釧路湿原国立公園連絡協議会
成ヶ澤 茂	釧路市民活動センターわっと
小杉 和寛	釧路シャケの会
照井 滋晴	NPO 法人 環境把握推進ネットワーク - PEG -
雑賀 重二	NPO 法人 釧路湿原やちの会

< 教育行政関係機関 >

機 関 名	出席者氏名
北海道教育庁 釧路教育局 社会教育指導班	岩崎 摂也
釧路市教育委員会 指導主事室	田中 君枝
鶴居村教育委員会 管理課 学校教育係	佐藤 直人

< 関係行政機関 >

機 関 名	出席者氏名
環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所	北沢 克巳
国土交通省 北海道開発局 釧路開発建設部 治水課	吉村 俊彦
林野庁 北海道森林管理局 釧路湿原森林環境保全ふれあいセンター	中島 章文
北海道釧路支庁 地域政策部 環境生活課 自然環境係	大野 美枝
釧路市	福田 芳弘

< ワーキンググループ事務局 >

機 関 名	出席者氏名
環境省 北海道地方環境事務所 釧路自然環境事務所 国立公園・保全整備課 釧路湿原自然保護官事務所	川淵 義昭 露木 歩美
財団法人北海道環境財団 企画事業課	久保田 学 山本 泰志 内田 しのぶ

環境教育ワーキンググループの活動について（案）

平成 19 年 8 月 21 日
環境教育WG事務局

1 活動方針

- 現在、再生普及小委員会には、再生普及行動計画ワーキンググループ（以下、「行動計画WG」）と環境教育ワーキンググループ（以下、「環境教育WG」）の2つのワーキンググループがある。
- 行動計画WGは、釧路湿原の保全、再生に向けて、広く社会の関心を喚起していくことや、そのための場づくりに関する情報の共有と発信、参加の呼びかけ等を中心に活動している。ここでの取組みは、主として広く市民を対象とする啓発活動が中心であり、そうした活動に主体的に取り組むメンバーが自発的に集まって活動している。
- この行動計画WGでの議論及び、この行動計画に至るまでの過程をとおり、湿原を活用した学校での環境教育等について、繰り返し拡充への期待の声がよせられてきた。しかし、釧路湿原地域での学校における環境教育の現状や必要性、可能性等については、必ずしも十分に状況が把握され、協議会等で共有されているわけではない。
- そこで、環境教育WGは、以下の3つを主な目的として活動していく。

釧路湿原周辺の学校等における環境教育に係る情報の収集
それらに関する、関係者間の情報共有
学校等における環境教育の推進方策の検討

- なお、環境教育の対象や場は広汎で多岐にわたるが、学校教育との連携への関心が高いこと、及び、社会教育に関しては、行動計画WGである程度の状況把握や情報共有が進みつつあること等から、当面、学校における湿原保全・再生をテーマとする環境教育の推進を優先的に検討し、その成果を踏まえて社会教育等への展開についても検討していくこととする。

2 実施体制

- 環境教育WGは、当初、再生普及小委員会構成員（希望者）、教育行政関係機関、関係行政機関で構成する。（別紙WG構成員名簿参照）
- 今後、具体的な推進方策を検討していくにあたっては、必要に応じて学校教員等の参画を要請する。
- 活動状況は、随時、再生普及小委員会に報告する。
- 事務局は、環境省釧路自然環境事務所が務める。

3 調査の実施

- 学校等における湿原をテーマとした環境教育については、その実施状況や意向、必要条件等が明らかではなく、その推進にあたり、まず、現状や課題等の基礎的情報の把握を必要としている。
- そこで、釧路湿原周辺の学校に対して、これらに関するアンケート調査を実施し、あわせて、関係機関での取組み状況についても把握する。調査結果は環境教育WG及び再生普及小委員会等で共有すると共に、各主体の活動に活用する。

(1) 調査対象

- 釧路湿原地域市町村（釧路町、標茶町、弟子屈町、鶴居村、釧路市）の学校

小学校	56校	（市町村立 55校、国立 1校）
中学校	33校	（市町村立 31校、国立 1校、私立 1校）
高等学校	14校	（道立 10校、市町村立 3校、私立 1校）
大学等	4校	（大学・短大 3校、高専 1校）

- 釧路湿原自然再生協議会団体構成員、オブザーバー、関係行政機関

(2) 調査内容（資料2参照）

- 湿原をテーマとした教育活動の実施状況
- 湿原をテーマとした環境教育の実施意向、必要条件、支援要望
- モデル的な授業実施やプログラム作りへの協力意向、他

(3) 調査実施者

- 環境教育ワーキンググループ

4 スケジュール（予定）

平成 19 年

- 8月21日 第1回環境教育WG開催
 - 活動方針の検討、共有
 - 調査についての検討
- 9月上旬 調査票発送
- 10月 調査票回収、集計
- 11～12月 第2回環境教育WG開催
 - 調査結果の共有と分析
 - 調査結果を受けた次年度活動方針の検討

途中、再生普及小委員会に適宜状況を報告する。

湿原を題材とした教育の実施状況に関する調査

調査主催 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会 環境教育ワーキンググループ
事務局:環境省釧路自然環境事務所

調査請負機関 財団法人北海道環境財団

このたびはお忙しいところ調査にご協力いただき、お礼申し上げます。以下の各欄に必要な事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒(切手不要)またはFAX(011-218-7812)により、9月 日 ()までに下記宛てにご返送ください。

調査目的・対象: 釧路湿原の保全・再生と集水域の学校教育、社会教育における環境教育活動との連携に向けて、必要な情報の収集と共有に努めることを目的として、釧路湿原集水域の5市町村の小学校、中学校、高等学校を主な対象に実施するものです。

調査結果の取扱い: 調査結果については、釧路湿原自然再生協議会構成員をはじめとして、環境教育ワーキンググループ及び再生普及小委員会等で共有させていただきます。加えて、報告書として取りまとめの上、学校関係機関、環境教育実施者等へ公開させていただきます。ご回答いただきました各学校には、報告書を送付させていただきます。

【アンケート回答にあたってのお願い】

- (1) 選択項目では、該当する番号の回答欄に をつけてください。
- (2) 選択項目のうち、「その他」など記載欄()もしくは、記入欄が用意されている項目を選んだ場合には、必要に応じて内容をご記入ください。
- (3) 自由記入欄では、設問への回答をご記入ください。記入スペースが不足する場合は、別途用紙をご用意いただき、アンケート表とともに送ってください。
- (3) 参考資料等をご提供いただける場合は、料金着払いにて下記宛てにお送りください。
- (4) 電子メールでのご回答を希望される場合は、yamamoto@heco-spc.or.jp まで、フォームをご請求ください。

(資料送付・お問い合わせ)

財団法人北海道環境財団 (担当:山本、久保田)
〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目伊藤・加藤ビル4階
電話 011-218-7811(月～金 10:00～18:30)、FAX 011-218-7812

1. 貴校について教えてください

1.学校名	ふりがな
2.全校生徒数	
3.教職員数	

2 . 環境教育の実施状況について

2 - 1 貴校では環境教育を実施していますか、1つ選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	実施している(湿原に限らず貴校で設定したテーマで環境教育を実施)	問2 - 2へ
	実施している(湿原を題材とする環境教育のみを実施)	問3 - 2へ
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない	問2 - 5へ
	実施の意向はない	
2 - 2 どのような時間に実施していますか、当てはまるものを全て選んで をつけてください。		
回 答	選 択 肢	
	総合的な学習の時間に実施している	問2 - 3へ
	教科の中で実施している	
	課外活動で実施している	
	そのほか()	
2 - 3 対象学年、時間数、具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。		
回 答(様式自由)	これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。	
		問2 - 4へ
2 - 4 実施における制約要因や課題等があれば、具体的にご記入ください。		
回 答(様式自由)		
		問3 - 1へ

2 - 5 環境教育を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。	
回 答(様式自由)	
	問2 - 6へ

2 - 6 環境教育を新しく導入していく場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。	
回 答	選択肢
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備
	外部からの講師の派遣
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)
	そのほか(具体的にご記入ください)
	問3 - 1へ

3 . 湿原を題材とした教育の実施状況について

3 - 1 湿原を題材またはフィールドとした教育活動 を実施していますか。1つ選んで をつけてください。この設問では、湿原でのマラソンや遠足等、環境教育以外の活動も含めてご回答ください。	
回 答	選択肢
	実施している
	実施の意向があるが、現在のところ実施していない
	実施の意向はない
	問3 - 2へ
	問3 - 5へ

3 - 2 どのような時間に実施していますか。当てはまるものを全て選んで をつけてください。	
回 答	選択肢
	総合的な学習の時間に実施している
	教科の中で実施している
	課外活動で実施している
	そのほか()
	問3 - 3へ

3 - 3 対象学年、時間数、具体的な内容、成果、感想等をご記入ください。

回答(様式自由) これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。

問3 - 4へ

3 - 4 実施における制約要因や課題等があれば、具体的にご記入ください。

回答(様式自由)

問4 - 1へ

3 - 5 湿原を題材とした教育活動を実施されていない理由を差し支えない範囲でご記入ください。

回答(様式自由)

問3 - 6へ

3 - 6 湿原を題材とした教育を新たに導入しようとする場合、どのような支援や条件が必要になるでしょうか。考えられるものを全て選んで をつけてください。 を選んだ場合には、可能な範囲で具体的にご記入ください。

回 答	選 択 肢	
	指導資料等授業のプログラムやマニュアルの整備	問4 - 1へ
	外部からの講師の派遣	
	予算(予算規模、利用目的を可能な範囲でご記入ください)	
	そのほか(具体的にご記入ください)	

4 . 湿原を題材とした環境教育への意向について

4 - 1 釧路湿原自然再生協議会では、関係者が情報を共有し、湿原を活用した環境教育の推進方策を検討していくために、同協議会メンバーの有志から成る環境教育ワーキンググループ(座長)を開催する予定です。このワーキンググループに貴校から参加を希望されますか、1つ選んで をつけてください。釧路湿原自然再生協議会については、別添の同封資料をご参照ください。

回 答	選 択 肢	
	メンバーとしての参加を希望(参加のための条件があればご記入ください)	問4 - 2へ
	情報提供のみ希望(メンバーとしては不参加)	
	情報提供も不要(メンバーとしては不参加)	

4 - 2 同ワーキンググループでの検討次第では、今後、作業部会として、湿原を題材とする授業のプログラム作りを行う可能性があります。こうした作業に参加を希望されますか、1つ選んで をつけてください。

回 答	選 択 肢	
	メンバーとしての参加を希望(参加のための条件があればご記入ください)	問4 - 3へ
	情報提供のみ希望(メンバーとしては不参加)	
	情報提供も不要(メンバーとしては不参加)	

4 - 3 上記の授業プログラムが作成された場合、それを用いたモデル的な授業の実施を希望されますか、1つ選んで をつけてください。

回 答	選 択 肢	
	教員が主体的に関わってモデル授業の実施を希望	問4 - 4へ
	情報提供を希望(教員に負担がかからないのであれば希望)	
	情報提供も不要	

4 - 4 湿原を題材とした環境教育の導入や推進について、ご意見をお聞かせください。

回 答(様式自由)

問5へ

5 . 回答者について

回答者氏名		回 答 者 役 職 等	
電 話 番 号		電 子 メール	

回答者情報については、別途連絡をさせていただく場合がある際にのみ使用させていただき、十分な注意を持って情報の取り扱いをいたします。

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

学校教育と連携した活動に関する調査

調査主催 釧路湿原自然再生協議会再生普及小委員会 環境教育ワーキンググループ
事務局:環境省釧路自然環境事務所

調査請負機関 財団法人北海道環境財団

このたびはお忙しいところ調査にご協力いただき、お礼申し上げます。以下の各欄に必要な事項をご記入のうえ、同封の返信用封筒(切手不要)またはFAX(011-218-7812)により、9月 日 ()までに下記宛てにご返送ください。

調査目的・対象: 釧路湿原の保全・再生と集水域の学校教育、社会教育における環境教育活動との連携に向けて、必要な情報の収集と共有に努めることを目的として、釧路湿原自然再生協議会構成員を主な対象に実施するものです。

調査結果の取扱い: 調査結果については、釧路湿原自然再生協議会構成員をはじめとして、環境教育ワーキンググループ及び再生普及小委員会等で共有させていただきます。加えて、報告書として取りまとめの上、学校関係機関、環境教育実施者、集水域5市町村の小、中、高等学校等へ公開させていただきます。

【アンケート回答にあたってのお願い】

- 自由記入欄において、記入スペースが不足する場合は、別途用紙をご用意いただき、アンケート表とともにお送りください。
- 参考資料等をご提供いただける場合は、料金着払いにて下記宛てにお送りください。
- 電子メールでのご回答を希望される場合は、yamamoto@heco-spc.or.jp まで、フォームをご請求ください。

(資料送付・お問い合わせ)

財団法人北海道環境財団 (担当:山本、久保田)
〒060-0004 札幌市中央区北4条西4丁目伊藤・加藤ビル4階
電話 011-218-7811(月～金 10:00～18:30)、FAX 011-218-7812

1. 貴組織について

1.団体・機関名 (個人会員の場合は2にご記入ください)	ふりがな
2.回答者氏名	
3.連絡先	電話
	電子メール

連絡先については、別途連絡をさせていただく場合がある際にのみ使用させていただき、十分な注意を持って情報の取り扱いをいたします。

2 . 釧路湿原周辺市町村における学校教育との接点・関わりについて

貴団体もしくは個人としての活動のなかで、学校教育との接点があれば、これまでの実績や今後の予定について、具体的にご記入ください。

回 答(様式自由) これらが記載されている文書等の同封に代えていただいてもかまいません。

3 . 湿原を活用した学校教育における環境教育の推進について

環境教育ワーキンググループでは、湿原をテーマとする環境教育の推進に向けた方策を検討し、メンバーが可能な範囲で実行、協力していくことを予定しています。湿原を活用した釧路湿原周辺市町村の学校における環境教育の推進に向けて、ご協力いただけることがあれば、ご記入ください。

回 答(様式自由)

以上でアンケートは終わりです。ご協力ありがとうございました。

【参考】 釧路湿原自然再生における環境教育の推進に関する経緯

平成12年6月 釧路湿原の河川環境保全に関する検討委員会（平成11年9月設立、会長：辻井達一財団法人北海道環境財団理事長）に、湿原利用小委員会が設置され、さらに、その下部に、釧路湿原環境教育ワーキンググループ（事務局：北海道釧路教育局、以下、「旧環境教育WG」）を設置。

平成14年3月 旧環境教育WGが、人材プログラムリストと小学校中学年、高学年、中学生用の副教材を作成し、管内の小中学校等に配布。（以後、事実上休止。）

平成15年6月 釧路湿原自然再生に係る市民参加・環境教育等の推進方策調査懇談会（平成14年9月設立、座長：辻井達一財団法人北海道環境財団理事長）が、「市民参加・環境教育等の推進に関する提言」（「10の提言」）をとりまとめ、公表。

11月 釧路湿原自然再生協議会の設立、再生普及小委員会の設置。

平成16年2月 再生普及小委員会の下に「10の提言行動計画ワーキンググループ」が設置され、同5月に「再生普及行動計画ワーキンググループ」（以下、「行動計画WG」）に改組。

平成17年3月 「釧路湿原自然再生全体構想」（以下、「全体構想」）公表。

6月 行動計画WGの議論をもとに、釧路湿原自然再生協議会が「釧路湿原自然再生普及行動計画」（通称「ワンダグリンド・プロジェクト」）を策定、公表。以降、毎年、年度毎の具体的な取組みのとりまとめと進捗状況の把握、情報発信、報告の作成等を継続。

行動計画は、自然再生推進法に基づく実施計画ではないが、全体構想に基づき作成される各種実施計画に、環境教育や市民参加の促進を盛り込んでいくための指針として位置づけられている。

平成19年3月 第8回再生普及小委員会において、旧環境教育WGを解散。その後の方針について行動計画WGで検討することとした。

5月 第9回再生普及小委員会において、あらためて再生普及小委員会の下に環境教育ワーキンググループ（以下、「環境教育WG」）の設置を決定。

8月21日 第1回環境教育WG開催（事務局：環境省釧路自然環境事務所）